

日本：本の国

4組 田浩呈

日本といえげ、発達した経済とか有名な電気製品とか厳しい礼儀などさまざまの言葉が自然に思い出せます。私にと、て、これらの言葉の他に、日本は「読書大国」といってても過言ではありません。

日本に来る前に、「日本を知る：本の国」といふ雑誌を読んだことがあります。その雑誌によると、日本では子供から大人までほとんど全部の国民は本を読むのが好きです。私も読書に興味があります。しかし、私の友達にあまり読まない人も大勢います。中国と一衣帯水の日本は本当にそんなに読書が好きかどうか、知りたいたいと思いました。今日本に来てもう3か月になって、自分の目で日本社会のあちこちを見ることかできるようになりました。そして、日本はやはり「本の国」といふことかわかりました。日本人の読書に対する愛で、日本の図書館と本屋の周到なサービス

など、心から敬服します。

日本では、日本人の読書に対する情熱をどこでも見ることができます。地下鉄に乗るたびに、席に座るとすぐ本を取り出して、読み始める人の姿が見られます。若者だけでなく、小学生もお年寄りも静かに本を読みます。信号を待つ短い時間を利用して、少しでも読みたがる人もいます。日本人にとって、読書はもう一仕事なのだと思えます。ある調査によると、日本人は一人当たり毎年45冊ぐらゐの本を読むそうです。中には宴会から帰ってちよと酔っていても、自分の決めた読書の量を完成しなければならぬと思える人もいます。みんなを促すので「本の虫」のようです。大体の日本人は本を読むのは時間もつぶすためではありません。日本の社会は競争が激しいですから、みんなは絶えず読書を通して自己を高めようとしています。ですから、日本は大人が「読書大国」になつてきたのだと思えます。

日本人の読書の習慣は完璧な図書館システムを抜きにしては成り立たないと思います。日本全国には約2000軒ぐらいの図書館があるそうです。さらに全部の図書館は無料で公衆に開放されています。その代表的な図書館は「国会図書館」でしょう。日本の国会図書館はアジアで一番大きい図書館で、「図書館の図書館」と呼ばれています。多くの日本人の財布に必ず図書館の貸し出しカードが入っています。豊富な蔵書はもちろんで、図書館が提供している読者中心のサービスも大いに役に立ちます。読者のニーズにこたえて、周到なサービスが受けられます。図書館のおかげで、日本人の読書に対する興味はますます高まってきました。

図書館は本を借りるために使いますが、本を買いたい場合は、本屋に行かなくてはなりません。本屋も日本人の読書の道を広げています。日本の本屋は普通あまり大きくないですが、本の種類に富んでいます。若者向

けの小説や漫画から、主婦向けの料理本や雑誌まで、さまざまな本を売っています。日本では新しい本の値段が高いですから、主に古本を扱っている店もたくさんあります。つまり、どんな本を探しても、必ず裏切りません。私は今鶴橋に住んでいますから、JR鶴橋駅に近いです。そこに「ブックオフ」といって本屋があります。先日夜11時ぐらいにブックオフに行くと、びっくりしたのは、そんな遅い時間なのに、本屋で本を読んでいる人や本を探している人がいっぱいいました。珍しいと思いました。

確かに、技術の発展とともに、携帯電話や先制的な電子製品は日本人の生活の主流になっていきます。本も読めて、持ちやすい携帯電話は本の代わりになるかどうか、わかりません。しかし、私は日本で本の活気を見て、感動しています。中国は昔から偉大な文化を続けているか否認できません。けれども、日本と比べて、現在の中国人は日本人のように

落ち着いて本を読むことが不足しています。
今中国の若者は読書より、インターネットの
方が好きです。中国でいろいろな都市に図書館
さえありません。残念だと思います。読書を
通して、いろいろな知識が得られて、充実し
た人生を過ごすことが出来ます。私もこれか
ら本と友達になろうと思います。